

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 国語 科目 古典探究

教科：国語

科目：古典探究

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（ 1 組：坂元、2 組：坂元、3 組：坂元、4 組：尾山・坂元、5 組：尾山・坂元、6 組：尾山、7 組：坂元 ）

使用教科書：（ 「新編古典探究」東京書籍 ）

教科 国語

の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 古典探究

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
		話・聞	書	読						
A 古文 『字治拾遺物語』 小野篁、広才のこと 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・展開のおもしろさを味わいながら、説話を正確に読み取る。 □説話文学の特徴や文学史について、「言語文化」の学習を踏まえ、確認する。 □資料集などで出典について調べる。 1 帝の篁への疑いの原因と、その疑いを晴らしたものが、ともに篁の学才にあることを理解する。（手引き1） 2 言葉遊びのおもしろさがどこにあるかを読み取る。（手引き2） 3 「帝ほほ笑ませ給ひて、事なくてやみにけり。」となった理由を考える。（手引き3） □帝と篁のやりとりのおもしろさをまとめる。 ・一人一台端末の活用。	○	○	○	【知技】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んで古典特有の表現に注意して展開のおもしろさを味わい、学習課題に沿って、説話を正確に読み取ろうとしている。	○	○	○	6	

1 学期	<p>B 古文 『伊勢物語』 東下り</p> <p>【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語の特色に注意しながら、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 □歌物語の特徴および『伊勢物語』について、既習の事柄を整理する。 【東下り】 1本文を通読し、旅の行程に注目しながら、いくつかの場面に分ける。(手引き1) 2第一段落の重要語に注意し、現代語訳する。 3主人公の「男」が「東下り」をするに至った事情について学び、その時の男の心情を考える。 4「唐衣…」の歌に用いられた和歌の修辞を理解するとともに、そこに詠み込まれた心情を理解する。(手引き2) 5第二～第五段落において、どのような場所を、どのように旅したか、具体的に考える。 6第二～第四段落において、「宇津の山」「富士の山」がどのように描写され、和歌に取り入れられているか考える。 7第五段落において、「すみだ川」のほとりの、男たちの心情について考える。(手引き2) 8全体を読み直し、男たちの心情の変化を、和歌に着目し、整理する。(手引き2) □『伊勢物語』を例に、歌物語の特徴をまとめ、理解する。 ・一人一台端末の活用。 	○	○	○	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主】積極的に歌物語の特徴について理解し、今までの学習を生かして、登場人物の心情や作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を読み取ろうとしている。</p>	○	○	○	8
	定期考査								○	○
	<p>C 古文 『大和物語』 娵捨</p> <p>【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌物語に表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、自分の考えを深める。 □作品についての解説を聞き、概略を理解する。 □娵捨伝説を知り、興味を持つ。 【娵捨】 1話の概略を理解する。 2「をば」を山に捨てるまでの男の気持ちやどのように変化しているかをまとめる。(手引き1) 3男が「をば」を迎えに行ってきたきっかけを読み取る。(手引き2) □各地に伝わる娵捨伝説について調べて、発表する。(言語活動) □『伊勢物語』と比較し、歌物語としての『大和物語』の特質を理解する。 ・一人一台端末の活用。 	○	○	○	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主】積極的に歌物語の特徴や古典における和歌の効用について理解し、今までの学習を生かして人物の心情を理解し、娵捨伝説についての自らの考えを深めようとしている。</p>	○	○	○	6

<p>D 漢文 唐詩</p> <p>【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむ。 □「言語文化」で学習した「漢詩の形式ときまり」をコピーして配布したり、便覧などを利用したりして、漢詩のきまりや特色を思い出す。 【送元二使安西】【登岳陽樓】 1 それぞれの作者について理解する。 2 詩を声に出して読む。(手引き1) 3 それぞれの詩の内容を捉える。 4 唐詩の詩形、押韻、対句の表現について考える。(手引き3) 5 正確な現代語訳をする。 6 繰り返し朗読して唐詩の調べを理解し、暗唱する。(手引き1) 7 訳詩を試みる。 一人一台端末の活用。 	○	○	<p>【知技】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 <p>【思判表】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 <p>【主】進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。</p>	○ ○ ○ ○ ○	8
定期考査					○ ○	1

<p>2 学 期</p>	<p>E 古文『枕草子』 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	<p>□この作品の内容と作者について、今までの学習で得ていた知識とともに、簡単に整理し、理解する。 【ありがたきもの】 1 この章段の「ありがたし」の意味を、列挙されているものから類推する。(手引き1) 2 列挙された事例の特徴を考える。(手引き2) 3 『枕草子』のパロディである『犬枕』、『尤之双紙』の一部を読み、内容を理解するとともに、それぞれの工夫について考える。(古文の窓4) 【九月ばかり】 1 作者の自然を見る視線の鋭さが、どの描写に見られるかを読み取る。(手引き1) 2 「をかし」の語に込められている作者の心情を読み取る。(手引き2) 【中納言参り給ひて】 1 登場する人物を挙げ、会話部分の誰の言葉であるかを指摘する。(手引き1) 2 「さては…くらげのななり。」について、その意味内容を読み取る。(手引き2) 3 隆家と作者の会話から、二人の人物関係について理解する。 4 末尾の記述に表れている作者の心情を読み取る。(手引き3) 【雪のいと高う降りたるを】 1 場面を読み取り、発言の主体と動作とを把握する。(手引き1) 2 作者のどのような行動が中宮の心にかかったのかを読み取る。(手引き2) 3 女房たちが作者をどのように評価していたかを読み取る。(手引き3) □各章段の内容上の特徴について</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>【技法】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んで軍記物語の表現の特徴について整理・理解しつつ特徴を生かすよう工夫して朗読し、学習課題に沿って描かれた人物像を読み取ろうとしている。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>8</p>
<p>2 学 期</p>	<p>F 古文『徒然草』 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p>	<p>・随筆に表れている作者のものの見方、感じ方、考え方を読み取る。 □随筆文学が、作者の自由な目で記されたものであり、題材・文体が多岐にわたることを理解する。 【丹波に出雲といふ所あり】 1 主語を確認しながら、話のあらすじを読み取る。 2 聖海上人の言葉の変化に沿って、その心情を読み取る。(手引き1) 3 この話のおもしろさは、どういうところにあるか説明する。(手引き2・3) 【九月二十日のころ】 1 主語に注意しながら、話のあらすじを読み取る。(手引き1) 2 人物の行動を整理する。(手引き1) 3 作者の「その人」に対する評価をまとめる。(手引き2・3) 4 絵の違いを見つけ、その違いについて考えたことを話し合う。(言語活動) ・一人一台端末の活用。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>【技法】 ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の作品や文章の種類とその特徴について理解を深めている。 ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。 ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。 【主】進んでさまざまな唐詩を読み味わい、学習課題に沿って、言語感覚や想像力を豊かにしようとしている。</p>	<p>○ ○ ○</p>	<p>8</p>

年間授業計画 様式例

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 地歴公民 科目 日本史探究

教科： 地歴公民 科目： 日本史探究 単位数： 4 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組
 教科担当者： （1組：森吉） （2組：河端） （3組：河端） （4組：河端） （5組：河端） （6組：河端） （7組：河端）
 使用教科書： （ 第一学習社 高等学校 日本史探究 ）
 教科 地歴公民 の目標：

- 【知識及び技能】 歴史的な転換点の因果について理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 歴史的事象の意義、及びその特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりしている。
- 【学びに向かう力、人間性等】 現代の諸課題について、歴史的な事象を踏まえ、より良い社会の実現を視野に主体的に解決しようとしている。

科目 日本史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べとめる能力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを身に付けている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学 期	近世・古代の日本と東アジア 【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解する。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教科書・資料集 など ・問いに向かう姿勢づくり 等	【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解しているか。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	22
	定期考査			○	○		1
	中世の日本と世界 【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解する。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教科書・資料集 など ・問いに向かう姿勢づくり 等	【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解しているか。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	26
定期考査			○	○		1	
2 学 期	近世の日本と世界 【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解する。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教科書・資料集 など ・問いに向かう姿勢づくり 等	【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解しているか。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	35
	定期考査			○	○		1
	近現代の地域・日本と世界1 【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解する。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教科書・資料集 など ・問いに向かう姿勢づくり 等	【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解しているか。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	35
3 学 期	近現代の地域・日本と世界2 【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解する。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。	・指導事項 ・教科書・資料集 など ・問いに向かう姿勢づくり 等	【知識・技能】 単元に関する政治・社会や文化の特色を理解しているか。 【思考・判断・表現】 単元に関する歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現できているか。 【主体的に学習に取り組む態度】 単元に関する諸資料を活用し、課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組んでいるか。	○	○	○	19
							合計
							140

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 地理歴史科 科目 世界史探究

教科： 地理歴史科 科目： 世界史探究 単位数： 4 単位

対象学年組： 第 3 学年 4 組～ 5 組

教科担当者： （4・5組： 森川）

使用教科書： （帝国書院『新詳世界史探究』）

教科 地理歴史科 の目標：

【知識及び技能】 歴史的な転換点の因果について理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。

【思考力、判断力、表現力等】 歴史的現象の意義、及びその特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 現代の諸課題について、歴史的現象を踏まえ、より良い社会の実現を視野に主体的に解決しようとしている。

科目 世界史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関する諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・世界史を学ぶにあたって 【知識及び技能】 人類が、地球の環境に適応しながら文化や文明を生みだしていったことを理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 地球環境の変化と生物や人類の歴史の関連について考察し、自分の言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 身近な環境と歴史の関係を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 地球環境からみる人類の歴史 古代文明の歴史的特質 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末	【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。	○	○	○	5
	・オリエント・地中海世界の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 史料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、諸地域の歴史的特質を考察していく問いを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 古代文明の歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 西アジアと地中海周辺の歴史的特質 ヨーロッパへ広がるキリスト教 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末	【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。	○	○	○	20
	定期考査			○	○	○	1
	・アジア・ユーラシア世界の歴史的特質の形成 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 史料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、諸地域の歴史的特質を考察していく問いを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 古代文明の歴史的特質を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 イスラームの誕生 イスラーム世界の拡大 ヨーロッパ封建社会の展開 東アジア諸地域の成長と自立 ユーラシア大帝国の出現 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末	【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。	○	○	○	23
定期考査			○	○	○	1	
2 学 期	・ユーラシア大交流圏の成立 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 史料から得た情報と、中学校までの学習で得た知識を統合し、諸地域の歴史的特質を考察していく問いを表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 諸地域の交流に関する影響を主体的に追究しようとしている。	・指導事項 イスラームの誕生 イスラーム世界の拡大 ヨーロッパ封建社会の展開 東アジア諸地域の成長と自立 ユーラシア大帝国の出現 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末	【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。	○	○	○	17
	・アジア諸地域の成熟とヨーロッパの進出 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 交易の拡大による諸地域の変化のうち、最も大きな変化について根拠を示しながら自分なりに評価し、表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 アジア諸地域間の交流について主体的に追究しようとしている。	・指導事項 明・清の国際秩序と東・東南アジア スペインとポルトガルの進出 スペインとポルトガルの進出 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末	【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。	○	○	○	17
	定期考査			○	○	○	1

	<p>・主権国家体制の成立と交易の拡大 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 17～18世紀のヨーロッパの社会構造の変化に大きな影響を与えたものは何かについて考察し、自分の言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 17～18世紀のヨーロッパの社会構造の変化を主体的に追究しようとし</p>	<p>・指導事項 ルネサンスと宗教改革 主権国家の形成と「17世紀の危機」 イギリスとフランスの覇権争いと大西洋三角貿易 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末</p>	<p>【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。</p>	○	○	○	17
	<p>・環大西洋革命～工業文明と国民国家の誕生 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 大西洋を取り巻く地域で起こった革命が、各地の社会構造に与えた影響を主体的に追究しようとし 定期考査</p>	<p>・指導事項 世界で最初の工業化 アメリカの独立 フランス革命と国民国家の誕生 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末</p>	<p>【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。</p>	○	○	○	17
				○	○	○	1
3 学 期	<p>・世界の一体化の完成とその影響 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 帝国主義が世界各地に与えた変化について、欧米およびアジア・アフリカ</p>	<p>・指導事項 イギリスの覇権と欧米の国民国家建設 世界の一体化の進展とアジアの変容 世界の一体化の完成とその影響 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末</p>	<p>【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。</p>	○	○	○	9
	<p>・世界大戦の時代 【知識及び技能】 複数の資料を関連付ける読解力や、それをまとめる力を身に付けている。 【思考力、判断力、表現力等】 両世界大戦を経て冷戦構造が形成されるなかで、アメリカ・ソ連・ヨーロッパ・第三勢力諸国の動きが冷戦構造に与えた影響について考察し、自分の言葉で表現している。 【学びに向かう力、人間性等】 二度の世界大戦が起こった理由を主体的に追究しようとしている。 定期考査</p>	<p>・指導事項 第一次世界大戦と社会主義革命 第二次世界大戦とその惨禍 戦後の国際秩序と冷戦 ・教材 教科書・資料集・プリント・一人1台端末</p>	<p>【知識及び技能】 単元における歴史事項についての理解度。 【思考力、判断力、表現力等】 単元における歴史事項についての考察過程及び言語表現力。 【学びに向かう力、人間性等】 単元における歴史事項についての課題発見と内面化の度合い。</p>	○	○	○	10
				○	○	○	1 合計 140

高等学校 令和7年度 (3学年用) 教科

理科 科目 化学基礎演習

教科: 理科 科目: 化学基礎演習

単位数: 3 単位

対象学年組: 第 3 学年 組~ 組

教科担当者: 岩崎

使用教科書: (化基702 「新編 化学基礎」 東京書籍)

教科 理科 の 目標:

【知識及び技能】 自然の事象・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事象・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 化学基礎演習 の 目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
化学に関する事象・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付ける。 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、化学に関する事象・現象を科学的に探究する技能を身に付ける。	自然界や産業界にある事象・現象の中に問題を見出し、化学的に探究する過程を通して、事象を科学的・論理的に考察し、導き出した考えを的確に表現できるようにする。	自然の事象・現象に進んでかわかり、科学的に探究しようとする態度を養う。 自然の原理・法則や科学技術と私たちの生活とのかわかりについて社会が発展するための基礎となる化学に対する興味・関心を高める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A 物質の探究 【知識及び技能】物質を純物質と混合物に分類できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】「蒸留」や「ヨウ素の分離」の実験の基本操作と検出方法について理解し、物質を探究するための具体的な方法を身に付けさせる。物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを論理的に考え、表現できるようにする。粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解し、物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする態度を養う。身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心を持ち、それらを意欲的に探究しようとする。	・指導事項 1 物質の分類と性質 2 物質と元素 3 物質の三態と熱運動 ・教材 教科書・プリント・問題集 ・ICT機器の活用 等	【知識・技能】物質を純物質と混合物に分類できる。 【思考・判断・表現】「蒸留」や「ヨウ素の分離」の実験の基本操作と検出方法について理解し、物質を探究するための具体的な方法を身に付ける。物質の物理的、化学的性質を調べることにより、物質が数種類に分類できることを論理的に考え、表現することができる。粒子の熱運動と粒子間にはたらく力との関係を理解し、物質の状態変化について粒子の運動をもとに考えられることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】物質の構造や性質に関する事象に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。身近な物質の三態変化と、粒子の熱運動と温度との関係に関心を持ち、それらを意欲的に探究しようとする。	○	○	○	21
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	B 物質の構成粒子 【知識及び技能】物質が原子から成り立っていることを理解する。同位体についての正しい知識を身に付けさせる。元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつくられていることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現できるようにする。イオンの生成を電子配置と関連付けて考えられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】元素の性質に興味を持ち、周期的に性質が変わることを探究する態度を養う。	・指導事項 1 原子の構造 2 イオンの生成 3 周期表 ・教材 教科書・プリント・問題集 ・ICT機器の活用 等	【知識・技能】物質が原子から成り立っていることを理解する。同位体についての正しい知識を身に付けている。元素の性質が電子配置と関係しており、現在の周期表がつくられていることを理解することができる。 【思考・判断・表現】原子構造の簡単なモデルを描く技能を習得し、的確に表現する。イオンの生成を電子配置と関連付けて表現することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】元素の性質に興味を持ち、周期的に性質が変わることを探究しようとする。	○	○	○	21
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	C 物質と化学結合 【知識及び技能】イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解させる。共有結合を電子配置と関連付けて理解できるようにする。また、配位結合について理解させる。電気陰性度や分子の形と合わせて極性について理解させる。分子結晶について理解させる。金属結合が自由電子による結合であることを理解させ、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質に結びつくことを理解させる。学習した化学結合の種類を系統立てて理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】イオン結合でできた物質の共通する性質について、推論できる力を養う。水溶液中や熔融した状態のイオンをイメージし、表現できるようにする。分子の電子式・構造式を書けるようにする。分子の結合と形について考えられるようにする。金属の色や性質、電気や熱の伝導度について調べたりする技能を習得させる。学習した化学結合について、特徴を比較しながら表現できるようにする。身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えられるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】イオン結合でできた物質の性質について探究しようとする態度を養う。分子からなる物質や、共通結合の結晶の性質について探究しようとする態度を養う。どのように金属元素どうしが結びついているのかについて理解しようとする態度を養う。	・指導事項 1 イオン結合、2 イオン結晶 3 共有結合と分子間力、4 共有結合からなる物質、5 金属結合と金属、6 身のまわりの金属、7 結晶の分類 8 化学結合と身のまわりの物質 ・教材 教科書・プリント・問題集 ・ICT機器・演示実験の活用 等	【知識・技能】イオン結合がイオン間の静電的な引力による結合であることを理解している。共有結合を電子配置と関連付けて理解することができる。また、配位結合について理解している。電気陰性度や分子の形と合わせて極性について理解している。分子結晶について理解している。金属結合が自由電子による結合であることを理解し、電気伝導性や展性、延性などの金属の性質と関連付けて理解している。学習した化学結合の種類を系統立てて理解している。 【思考・判断・表現】イオン結合でできた物質の共通する性質について、推論することができる。水溶液中や熔融した状態のイオンをイメージし、表現することができる。分子の電子式・構造式を書けることができる。分子の結合と形について考えることができる。金属の色や性質、電気や熱の伝導度について調べたりする技能を習得している。学習した化学結合について、特徴を比較しながら表現することができる。身近な物質を化学結合の種類と結び付けて考えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】イオン結合でできた物質の性質について探究しようとする。分子からなる物質や、共通結合の結晶の性質について探究しようとする。どのように金属元素どうしが結びついているのかについて探究しようとする。金属に共通する性質について探究しようとする。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	D 物質の変化 (物質と化学反応式) 【知識及び技能】原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的に理解するとともに、物質量を用いた基本的な計算ができるようにする。化学式が使用できることにも、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身に付けさせる。物質と気体の体積の関係を理解させる。物質量と気体の体積の関係を理解させる。モル濃度を、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】質量パーセント濃度とモル濃度の違いを理解できるようにする。基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現させる。化学反応式の量的関係において、反応式の係数が物質量の比を表していることを見出せるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】溶液の濃度の表し方について探究しようとする心養う。いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする心とともに、意欲的にそれらを探究しようとする。	・指導事項 1 原子量と分子量・式量 2 物質量 3 溶液の濃度 4 化学反応式 ・教材 教科書・プリント・問題集 ・ICT機器の活用 等	【知識・技能】原子量・分子量・式量と物質量の関係を論理的・分析的に理解できるとともに、物質量を用いた基本的な計算ができる。化学式が使用できるとともに、原子量・分子量・式量・物質量の知識を身に付けている。物質と気体の体積の関係を理解している。モル濃度を、溶液の体積と溶質の物質量との関係を表していることを理解している。 【思考・判断・表現】質量パーセント濃度とモル濃度の違いを理解することができる。基本的な化学式、化学反応式を書く技能を習得し、的確に表現する。化学反応式の量的関係において、反応式の係数が物質量の比を表していることを見出せる。 【主体的に学習に取り組む態度】溶液の濃度の表し方について探究しようとする。いろいろな物質の化学変化に注目し、化学変化の量的関係を物質量と関連付けて考察しようとする心とともに、意欲的にそれらを探究しようとする。	○	○	○	11
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	E 物質の変化 (酸と塩基) 【知識及び技能】酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えさせる。酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を理解させる。酸・塩基の定義を理解させる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解させる。酸性、塩基性の程度とpHの関係を理解させるとともに、pHの指標の便利さと実用性も理解させる。中和反応における量的関係を理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】酸・塩基の価数・強弱の関係を電離度に関連付けて考察することができるようにする。pH試験紙でいろいろな溶液や身近な物質のpHを測定する技能を修得させる。さまざまな酸・塩基の強弱について考察することができるようにする。メスフラスコ、ビュレット、ホールピペットなどの実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を修得させる。 【学びに向かう力、人間性等】酸・塩基がどのような物質であるか興味・関心をもたるとともに、酸性、塩基性の程度を表す方法を探究しようとする態度を養う。	・指導事項 1 酸と塩基 2 水素イオン濃度とpH 3 中和反応と塩 ・教材 教科書・プリント・問題集 ・ICT機器・演示実験の活用 等	【知識・技能】酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連付けて酸・塩基の反応を捉えさせることができる。酸・塩基の化学式や酸・塩基の反応を通して、酸と塩基の共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解できる。酸・塩基の価数・強弱の関係を理解できる。酸性、塩基性の程度とpHの関係を理解し、pHの指標の便利さと実用性を理解している。中和反応における量的関係を理解している。 【思考・判断・表現】酸・塩基の価数・強弱の関係を電離度に関連付けて考察することができる。pH試験紙でいろいろな溶液や身近な物質のpHを測定する技能を修得し、さまざまな酸・塩基の強弱について考察することができる。メスフラスコ、ビュレット、ホールピペットなどの実験器具の取り扱いができると同時に、酸・塩基の量的関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を実験で求める技能を修得している。 【主体的に学習に取り組む態度】酸・塩基がどのような物質であるか探究するとともに、酸性、塩基性の程度を表す方法を探究しようとする。	○	○	○	22
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	F 物質の変化 (酸化還元反応) 【知識及び技能】酸化・還元反応の定義、酸化と還元が同時に起こることを理解させる。酸化数の定義を理解させる。身近な現象と酸化還元反応を関連付けて考えさせる。酸化剤・還元剤について理解させる。酸化還元反応の量的関係を理解させる。金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】酸化・還元・酸化数の定義を適用できる反応を見出すようにする。酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書けるようにする。また、イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができるようにする。金属のイオン化傾向と金属樹の関係を、金属のイオン化傾向を系統的に整理し、表現できる力を養う。また、得られた知識から、どのような反応が起こるかを推察できる能力を育成する。 【学びに向かう力、人間性等】酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学変化をとらえ、意欲的に探究しようとする態度を養う。	・指導事項 1 酸化と還元 2 酸化剤と還元剤 3 酸化還元反応の起こりやすさ 4 身のまわりの酸化還元反応 ・教材 教科書・プリント・問題集 ・ICT機器・演示実験の活用 等	【知識・技能】酸化・還元反応の定義、酸化と還元が同時に起こることを理解している。酸化数の定義を理解している。身近な現象と酸化還元反応を関連付けることができる。酸化剤・還元剤について理解している。酸化還元反応の量的関係を理解している。金属のイオン化傾向を、酸化還元反応と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】酸化・還元・酸化数の定義を適用できる反応を見出すことができる。酸化反応・還元反応で起こるイオン反応式を書けることができる。また、イオン反応式から反応全体の化学反応式を導くことができる。金属のイオン化傾向と金属樹の関係を、金属のイオン化傾向を系統的に整理し、表現することができる。また、得られた知識から、どのような反応が起こるかを推察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】酸化還元反応に関心を持ち、電子の授受という観点から化学変化をとらえ、意欲的に探究しようとする。	○	○	○	14
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							105

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 生物基礎演習

教科：理科 科目：生物基礎演習 単位数：3 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（ 1組～7組：遊佐 ）

使用教科書：（ 2026セミナー生物基礎 第一学習社 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】自然の事物、現象から疑問を見いだすことができ、その疑問に対して仮説を立てることができる。

【学びに向かう力、人間性等】グループワークや実験において自分の意見を発表する等、周囲に対して配慮しながらコミュニケーションをとることができる。

科目 生物基礎演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生命現象や、自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生命現象や、自然の事物・現象について疑問に思ったことを、他者と共有する中で、新たな発見や課題を見つけ、それに対して探究することができる。	生命現象や、自然の事物・現象に対して積極的に関わり、それらに対する気付きから仮説を立て、自ら課題解決を図ろうとする。生命を尊重し、自然環境の保全に努めようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	生物の多様性と共通性 ・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解する。 ・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解する。 ・生物に共通する性質は細胞であることを理解する。また、細胞にも原核細胞と真核細胞があることを細胞の内部構造とともに理解する。	生物の特徴 ・生物の多様性と共通性	・生物が共通性を保ちながら進化し多様化してきたこと、共通性は起源の共有に由来することを理解している。試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。原核細胞と真核細胞の違いについて、細胞小器官の違いとともに理解している。（知識及び技能） ・生物や細胞の観察から課題を見だし、仮説の設定、実験による検証、調査、結果の分析、考察ができる。（思考力、判断力、表現力等） ・生物や生物現象に授業や実験、観察を通して主体的に関わり、自身の学び方を調整しようとする。	○	○	○	6
	細胞とエネルギー ・生命活動に必要なエネルギーと代謝について理解する。 ・代謝の反応が行われるときに、酵素がどのように関与しているのかを実験を通して見いだす。 ・光合成や呼吸がATPを合成する反応であることを理解する。	生物の特徴 ・生物とエネルギー	・生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。生体内で行われる化学反応は、酵素が触媒していることを理解している。（知識及び技能） ・呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察、それを表現できる。カタラーゼを用いた実験から、酵素の作用と作用する物質の関係について結果を導き出すことができる。（思考力、判断力、表現力等） ・資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。また、	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	遺伝情報とDNA ・DNAの構造や性質を研究史を展開しながら理解する。DNA、遺伝子、ゲノムの関係性を理解する。 ・DNAが体細胞分裂の際に、複製され質・量ともに均等に分配されることにより遺伝情報が伝えられることを理解する。 ・DNAの複製・分裂は細胞周期にあわせて行われることを理解する。	遺伝子とその働き ・遺伝情報とDNA	・DNAが二重らせん構造であること、2本鎖の塩基配列は相補的であることを理解している。ゲノム、遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。体細胞分裂が行われる際に、遺伝情報の同一性が保たれることを理解している。生物の組織からDNAを抽出する技能を習得している。（知識及び技能） ・資料に基づき、DNAの構造を科学的に見いだすことができる。DNAの複製を塩基配列と関連付けて説明することができる。（思考力、判断力、表現力等） ・DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。細胞分裂の際に、DNAの塩基配列が正確に複製されるしくみを見だし、理解しようとする。（学びに向かう力、人間性等）	○	○	○	8
	遺伝情報とタンパク質の合成 ・さまざまな生命現象にはタンパク質が関わっていることに触れ、それらタンパク質がDNAの遺伝情報に基づいて合成されることを理解する。 ・DNAからタンパク質が合成される際には、転写・翻訳が行われることを理解する。 ・すべての遺伝子がすべての細胞で発現しているわけではないことを理解する。資料等から、発現する遺伝子の変化により、細胞が分化することを理解する。	遺伝子とその働き ・遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの塩基配列に基づいて、タンパク質が合成されることを理解している。遺伝子の発現について理解し、細胞ごとに特定の遺伝子が発現することを理解する。試料の採取、染色などを行い、光学顕微鏡で観察する技能を習得している。（知識及び技能） ・DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。（思考力、判断力、表現力等） ・DNAの塩基配列の情報に基づいて、タンパク質が合成されることを理解しようとする。（学びに向かう力、人間性等）	○	○	○	8
定期考査			○	○		1	

2 学 期	<p>体内環境</p> <ul style="list-style-type: none"> 動物が体内環境をもち、外界からの影響を適切に調節していることを理解させる。 恒常性により、体内環境が保たれていることを理解させる。 体液を調節することで、体内環境が保たれていることを理解させる。 	<p>ヒトのからだの調節</p> <ul style="list-style-type: none"> 体内環境 	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。腎臓での塩類濃度の調節や、肝臓による物質の合成・分解などのしくみを理解している。(知識及び技能) 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。(思考力・判断力・表現力等) 外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。(学びに向かう力、人間性等) 	○	○	○	6
	<p>体内環境の維持のしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解させる。 体内環境の調節に、神経系と内分泌系が関わっていることを理解させる。 体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解させる。 ヒトの体液濃度の調節が、自律神経とホルモンの作用により一定の範囲に保たれていることを理解させる。 血糖濃度がホルモンと自律神経が関わるしくみで調節されていることについて理解させ、調節ができなくなったときに発症する疾患についても触れる。 <p>定期考査</p>	<p>ヒトのからだの調節</p> <ul style="list-style-type: none"> 体内環境の維持のしくみ 	<ul style="list-style-type: none"> 神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。ホルモンの分泌により血糖濃度が保たれることを理解しており、ホルモンの分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。(知識及び技能) 体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。(思考力・判断力・表現力等) 観察、実験に基づいて、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見だし、理解しようとする。資料に基づいて、ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見だし、理解しようとする。(学びに向かう力、人間性等) 	○	○	○	6
	<p>免疫</p> <ul style="list-style-type: none"> ヒトには異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解する。 病原体の侵入を防ぐための、異物を認識し、排除するしくみを理解する。 免疫のしくみの概要を取り上げ、体液性免疫や細胞性免疫について理解する。 一次応答と二次応答の違いを理解する。 	<p>ヒトのからだの調節</p> <ul style="list-style-type: none"> 免疫 	<ul style="list-style-type: none"> 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。免疫の医療への応用やヒトの免疫疾患について理解している。(知識及び技能) 資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。病原体を認識・排除する機構のしくみを体系的に考察し、表現することができる。ヒトの免疫疾患について、身近な例をもとに説明することができる。(思考力・判断力・表現力等) 	○	○	○	1
	<p>生態系とその成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> 生物は環境からの影響を受けながら存在し、生態系には多様な生物が存在することを理解する。 陸上には、草原や森林などのさまざまな植生があることを理解する。 遷移の事例や資料を通して、植生は不変ではなく、光の量や植生をとり巻く環境から影響を受けて変化していくことを理解する。 <p>定期考査</p>	<p>生物の多様性と生態系</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系とその成り立ち 植生とバイオーム 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上には、森林・草原・砂漠などの多くの植生がみられ、植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 植生の遷移についてその過程を理解している。(知識及び技能) 生物や植生の観察から課題を見だし、仮説の設定、実験による検証、調査、結果の分析、考察ができる。(思考力、判断力、表現力等) 植物の観察や授業での探究活動に主体的に関わり、自身の学び方を調整しようとしている。(学びに向かう力、人間性等) 	○	○	○	8
	<p>定期考査</p>			○	○		1
3 学 期	<p>生態系とその成り立ち</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系の多様な生物の中の、生物同士のつながりについて理解する。 生態系にはバランス関係が成り立っていることを理解する。 人間生活による環境への影響について理解する。 生態系保全の重要性について理解する。 	<p>生物の多様性と生態系</p> <ul style="list-style-type: none"> 生態系と生物の多様性 生態系のバランスと保全 	<ul style="list-style-type: none"> 生物どうしの関係性について、捕食・被食の関係について、個体数の周期的な変動が起こることを理解している。 人間生活によって、地球環境にさまざまな悪影響を及ぼしていることを理解している。(知識及び技能) 外来生物や人間生活による環境汚染から課題を見だし、仮説の設定、実験による検証、調査、結果の分析、考察ができる。(思考力、判断力、表現力等) 生態系のバランスについての探究活動に主体的に関わり、自身の学び方を調整しようとしている。(学びに向かう力、人間性等) 	○	○	○	16
	<p>定期考査</p>			○	○		1

令和8年度 保健体育科年間授業計画

学年	科目	単位	4月				5月				6月				7月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月			
			4/13(月)～				4/20(月)～5/15(金)				5/18(月)～6/12(金)				6/15(月)～7/10(金)				9/2(水)～9/11(金)				9/14(月)～10/19(月)				10/26(月)～11/20(金)				11/24(火)～11/30(月)				1/12(月)～2/10(木)				2/15(月)～2/26(金)							
1年	体育	男子	オリエンテーション				陸上競技 (50・1000・1500m走)				スポーツテスト (体育祭練習)				ソフトボール				水泳/ソフトボール				水泳/バスケットボール				バスケットボール				サッカー				体育理論				持久走				体育理論			
		女子	オリエンテーション				陸上競技 (50・1000・1500m走)				スポーツテスト (体育祭練習)				バスケットボール				水泳/バスケットボール				水泳/ソフトボール				ソフトボール				バレーボール				体育理論				持久走				体育理論			
	保健	1				1 現代社会と健康												1 現代社会と健康												2 安全な社会生活																
2年	体育	男子	オリエンテーション				陸上競技 (50・1000・1500m走)				スポーツテスト (体育祭練習)				ソフトボール				水泳/ソフトボール				水泳/バスケットボール				バスケットボール				サッカー				体育理論				持久走				体育理論			
		女子	オリエンテーション				陸上競技 (50・1000・1500m走)				スポーツテスト (体育祭練習)				バスケットボール				水泳/バスケットボール				水泳/ソフトボール				ソフトボール				バレーボール				体育理論				持久走				体育理論			
	保健	1				3 生涯を通じる健康												3 生涯を通じる健康				4 健康を支える環境づくり												4 健康を支える環境づくり												
3年	体育	男子	オリエンテーション				陸上競技 (50・1000・1500m走)				スポーツテスト (体育祭練習)				ソフトボール				水泳/ソフトボール				水泳/バスケットボール				バスケットボール				サッカー				体育理論				種目選択							
		女子	オリエンテーション				陸上競技 (50・1000・1500m走)				スポーツテスト (体育祭練習)				バスケットボール				水泳/バスケットボール				水泳/ソフトボール				ソフトボール				バレーボール				体育理論				種目選択							
	スポⅡ	男子	ゴール型:ハンドボール				ネット型:テニス								ベースボール型:ソフトボール								ゴール型:バスケットボール				ネット型:テニス								ゴール型:サッカー				ベースボール型:ソフトボール							
オリエンテーション			体育授業に関する諸注意/体づくりと体育理論の進め方/授業の進め方 など																																											
体づくり運動			毎時間の授業内で実施する。 トレーニングノートの記入内容により学期末ごとに「10段階」で評価する。(学年共通)																																											
保健	1学年	1	1単元「現代社会と健康」								2学年	2単元「生涯を通じる健康」								体育理論	各学年の学習内容を実施。6単位程度以上実施。								水泳・持久走	各学年→水泳は、6時間程度実施。持久走は6時間程度実施+マラソン大会2時間 (マラソン大会の出欠席:2時間および10段階評価は3学期の成績に入れる。)								スポーツテスト	10段階評価を出し、1学期の評価に入れる。							

]

|

